



ボッチャの会の定例会の様子

Contents

<多世代交流で元気なまちづくり>
とみさとボッチャの会

<とみさとの魅力みつけた！>
富里市立図書館
とみらいテラス

多世代交流で元気なまちづくり

パラリンピックの正式種目でもある「ボッチャ」は、子どもから高齢者まで皆で楽しめるスポーツです。学校、福祉の場、お祭りなど市内でボッチャを楽しむ人がジワジワと増えてきています。その普及に取り組んでいる「とみさとボッチャの会」取材しました。

誰でも挑戦できるスポーツ

ボッチャはパラリンピックの正式種目にもなっており、2021年の東京開催では金・銀・銅メダルを獲得。そして今年のパリ開催でも銅メダルを獲得し、大いに盛り上がりました。「ボール」を意味するイタリア語の「ボッチャ」から名付けられたこの競技は、もともと脳性まひの人々のために考案され、現在では世界75か国で多様な運動機能障がいを持つアスリートたちによって行われています。

ルールはとても簡単です。青と赤のチームに分かれジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたり、他のボールに当てたりしながらいかに近づけるかを競うスポーツです。

日本でも様々な大会が開催されており、「全国ボッチャ選抜甲子園」を視察した代表の井上康さんが「体が不自由でも皆が夢中になれるスポーツがある」ということを知り、富里でも普及させたいとの思いで平成30年6月に「とみさとボッチャの会」を立ち上げました。



ボッチャの道具やルールはとてもシンプル



コートの準備は念入りに

7月のとある土曜日、富里中央公民館の大会議室では暑さに負けず、楽しそうな笑い声が響きわたっていました。毎月2回ある定例会では、障がいを持つ方や高齢者、若者が集まりボッチャを楽しんでいます。一人でも多くの方が競技できるようにコートを複数面作るのですが、これは正式なものではなく遊び用の簡易コートを使っています。会員が率先して準備をしたり、片付けをしたり、そんな時間も和気あいあいとしています。

ボッチャを始めて1年ちょっとになる83歳の会員の方にお話を伺いました。参加したきっかけは富里市南部地域包括支援センターで体験会に参加したことでした。腰を痛めていても座ったままでできるということ、ルールが簡単で勝った！負けた！で盛り上げられることが、始めた理由だったそうです。「手と頭を使うので認知症予防にもなっています」と喜んでいました。

サポートセンターからのお知らせ



とみちゃん秋まつり『とみさと市民活動フェスタ』を開催します！

日時 11月17日（日） 9：00～15：00

場所 とみさと市民活動サポートセンター・
すこやかセンター車路



来場者の皆さんに楽しんでいただけるよう、準備中です。

👉 昨年の様子はこちら。



住んでいる地域で多くの知り合いを作る

ボッチャの会を立ち上げた当時は障がい者だけでなく体力が衰えてきている高齢者や、子どもたちを対象に「出前体験会」を実施。まだボッチャというスポーツが知られておらず、反応も薄かったそうです。

それでも、学童保育・地域包括支援センター・介護施設・自治会の集まりなど積極的に声をかけ、体験会を開催し、地道にコツコツとボッチャを広める活動をしてきました。すると、2～3年経った頃には、「体験会をやしてほしい」と、逆に声が掛かるようにまでなり、今では、富里のあちらこちらでボッチャを楽しむ人たちの姿を見られるようになりました。

代表の井上さんは、ゆくゆくは自分たちが体験会を実施しなくても、自主的にボッチャを楽しみながら交流できるように、もっと地域に根付いてほしいと思っています。



学童保育でボッチャを楽しむ子どもたち



とみさとボッチャの会のメンバー

そう思うようになったきっかけは、コロナ禍の影響で家に引きこもり、孤立した高齢者が増えてしまったことにありました。

状況が落ち着いた今でも、まだそうした高齢者が多い現実には、近くにある自治会館であれば一歩を踏み出すきっかけになるのではないかと。そして知り合いが増えることで、地域との繋がりを感じ、生き甲斐になるのではないかと。ボッチャが、そんな地域社会の一助になればいいという思いで活動しています。

「地域のなかで困っている人がいたら気軽に助け合えるようなご近所関係は大切ですよ。そのためには一人でも多くの知り合いを作ることだと思います。ボッチャならプレーを通して自然と顔見知りが増えるので、そうした関係性を築くのに適しているのではないかなと思います。」と、話してくれました。

ボッチャに興味がある方は下記までお問合せください。

とみさとボッチャの会
代表 井上 康 090-1115-9286

サポートセンターからのお知らせ

とみさと市民活動フェスタの会場飾りを一緒に作りませんか？



日時

10月5日（土）・11月2日（土）

両日とも13：00～17：00 ※時間内出入り自由

場所

とみさと市民活動サポートセンター フリースペース

持ち物

材料（作りたいものがあれば）・飲み物等
フェスタの会場を華やかに飾りましょう♪



とみさとの魅力み一つけた！

富里の魅力ある「人」「場所」「文化」などにスポットを当てて紹介していきます。

富里市立図書館 とみらいテラス



前面ガラス張りのスタイリッシュな建物と、壁面に描かれたスプレーアートが目を引き富里市立図書館。蔵書数は、読み物や実用書、児童書、合わせておよそ20万冊。ギャラリーや飲食ができるコーナーなど、市民の憩いの場としての役割も担っています。そんな図書館の裏側をちょっと覗いてみました。

まずは2階にある閉架書庫へ入ってみると、そこには過去の新聞や雑誌、永年保存の資料などが、可動式の棚に並んでいます。雑誌は3年間保存し、それを過ぎたものは、毎年12月頃に行われるリサイクルフェアに出され、欲しい方に引き取られていきます。特に料理や健康に関する雑誌は人気があるそうで、毎年楽しみにされている方もいらっしゃるようです。



閉架書庫



エレベーター

閉架書庫を出て1階へ移動する途中、黄色い扉を発見。その正体は本を運ぶためのエレベーターでした。本を持って階段を上がったたり下りたりは、さすがにキツイですね。

次に向かったのは1階の団体貸出室。ここには、登録してある団体向けに貸出す書籍が保管されています。例えば、学校のある学級から「〇〇について調べ学習をするので、それに関する本をお願いします」などの依頼があった場合に、この本たちの出番となります。学級の児童、生徒数分が必要になるので、同じような分野の本がある程度の数は揃っています。また、大型絵本もあり、読み聞かせなどを行っている団体に貸出しています。

お母さんが本を選んでいる間、子どもの見守りや絵本の読み聞かせ、また、幼児期にはどんな本を読んだらいいかなどアドバイスしてくれる「親子読書支援コンシェルジュ」がいるのをご存知ですか。



コンシェルジュの京増さん

毎週木曜日から日曜日の4日間、児童コーナーで親子に寄り添った支援をしています。親子で安心して本に親しめますね。

読書だけではなく、芸術作品を愛でたり、映画を観たり、ほっと一息ついたり、図書館を丸ごと楽しみたいですね。



コーディネーターのひとりごと

1988年からパラリンピックの正式種目となったボッチャが、様々なバックグラウンドをもつ人々に活躍の場をもたらしているのは嬉しいことです。将来、富里市から選手が出るといいですね。（か）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E-mail:tomisapo@bz04.plala.or.jp

登録団体数：90団体（9月1日現在）

年4回発行 発行部数：2500部 配布先：市内公共施設 他

